

## 『経済資料研究』の創刊を祝す

東京大学図書館館長

伊藤 四十二

学術研究を効果的に進めるためには、研究図書館の主題別の全国的な協力組織が必要であることはいうまでもない。特に経済学の領域では、各種調査資料、統計等の情報資料の完全な整備が必要で、そのためにはこのような協力組織が不可欠であろう。さいわいにもすでに20年ほど前から全国の主要大学の経済学部および研究所が協力して「経済資料協議会」が結成され、13年の歴史を持つ『経済学文献季報』と題する二次資料を刊行して、学術情報を研究者に提出し、わが国経済学研究に多大の寄与をなしていることは誠に意義深いことである。今回、『経済資料研究』と題する機関誌を新たに刊行されることは、経済学関係専門図書館員の方々が、いわゆる“Subject Specialist Librarian”としての資質を一層たかめる上から誠によろこばしいことである。本協議会が、このような発展をみるに至ったのは、『経済学文献季報』の編集を中心として、加盟大学、研究所の研究者と図書館職員の方々との間に深い相互理解と緊密な協力があったからで、そのどちらか一方だけでは、このような専門分野の学術情報の提供は不可能である。今後ますます両者の提携を密にされて、まず、経済学領域から立派な“Academic librarian”が多数輩出されることを切に望むものである。